

新しい胃がん発生リスクの指標について

日本人の死因の第一位は、がんです。

1年間にがんで亡くなる人のうち、一番多い肺がんの約7万人に対して、胃がんは約5万人です。一方、1年間にがんに罹る人は、肺がんの約11万人に対して胃がんは約13万人です。肺がんよりも胃がんの方が治る人が多く、それだけに早期の発見・治療が大切だということが分かります。

胃がんの発症には、塩分の摂り過ぎや喫煙なども関係していますが、ピロリ菌への感染がリスクを高める大きな要因として注目されています。

胃で分泌される胃液には、消化酵素と強い酸が含まれていて、除菌をしながら消化する働きがあります。そのため、細菌の多くは胃の中で生き続けることができません。しかし、ピロリ菌は、自ら酸を中和する物質を出すことで、周囲の環境を変えながら、住み続けることができます。もちろん、ピロリ菌に感染したから胃がんを発症するという訳ではなく、胃壁に取りついて炎症を起こし、潰瘍やがんができるやすい環境をつくり出すと考えられています。そこで、ピロリ菌を除菌することが胃がんの予防になります。

胃の健康度(発がんの危険度)を表す指標として「胃がんリスク分類(ABC分類)」が用いられます。この指標は、抗体検査によるピロリ菌への感染の有

はまの すみと
臨床検査科 濱野 澄人

無と、ピロリ菌の攻撃によって萎縮した胃の粘膜の状態を表す物質の値を組み合わせ、胃の健康度をA・B・Cの3段階で表すものです。

検査は、採血するだけで、他の健康項目の検査と併せて調べることができます。内視鏡による観察やバリウムを用いたX線透視検査のように、胃がんそのものを見つけるものではありませんが、胃がんを発症するリスクの程度を血液検査で簡便に知ることができますので、健診結果から病院受診への契機になることが期待されています。

がんは早期発見早期治療が肝心です。いつまでも健康な体を維持していくためにも、まずは積極的に検診(健診)を受け、日頃から自身の体の状態をチェックすることが大切です。

【市民病院の医師による講演会】
ドクター清水のワンポイント“出前”クリニック
とき 7月8日(土)午後2時から
ところ 唐子市民活動センター大会議室(定員80人)
テーマ ~最後まで歩くため~最近の人工関節置換術
申込み・問合せ 市民病院管理課☎24-6111
FAX22-0887